

《資料論文》

話すことに抵抗感のある児童に関する研究 ―支援方法としての自学教材の提案―

芳賀優香

1. はじめに

本研究は、話すことに抵抗感のある児童を対象とする、児童のための自学教材を提案するものである。「話すことに抵抗感のある児童」と聞くと、障害によって話すことに苦手意識を持つ児童を想定する人も多いだろう。しかし本研究における「話すことに抵抗感のある児童」とは、緘黙、吃音、発達障害などの障害特性をもつことによって話すことに抵抗感のある児童ではない。現在、文部科学省によって「学習障害 (LD)・注意欠陥多動性障害 (ADHD)・高機能自閉症等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒数について、約 6.5 パーセント程度の割合で通常の学級に在籍している可能性」が示されており、インクルーシブ教育が推進されている。そのような学級の現状の中で、特別な教育的支援を必要とする児童に隠れて、特に目立つことなく過ごす児童の中に実は話すことに抵抗感や課題意識をもって苦しんでいる児童は多くいるのではないかと考えられる。このような一見普通の子、これまで特に支援が必要と考えられてこなかった、支援の目が向けられてこなかった児童に支援の目を向け、手を差し伸べる必要があると考えた。本研究では、以上の問題意識を踏まえ、児童の「話すこと」への抵抗感に対する支援の方法として、児童に向けた自学教材を作成し、提案する。

そのために、話すことの困難感をもつ児童に向けて出版された、話すことへの抵抗感の改善を支援する児童書の分析を行い、児童が困難感を解消するために用いることの出来る具体的な解決方略を明らかにした。ここから、児童の困難感とそれを解消するための方略を結びつけて、児童が困った時に参考にできるような自学教材を作成し、提

案する。その作成にあたっては、パターンランゲージの手法を参考にした。

2. 教材の作成方法

本研究では、話すことに対する抵抗感の改善につながる学習財として、このような子ども向けに出版された「児童書」の存在に着目した。児童書に着目した理由は、児童書がこのような子どものニーズに応えるよう、子どもの目線で、様々な手立てが書かれたものだからである。児童の話すことに対する抵抗感の改善につながる学習がどのように提案されているのかを確認し、児童自身の意識に働きかける支援に役立てることを目的として、話すことの苦手な児童向けに出版された児童書の内容の分析を行う。

分析方法は、K J 法(川喜田,1967,1970)及びパターンランゲージの制作プロセス(井庭,2013)を参考にした。具体的には、以下のとおりである。

まず、「発表」や「人前で話すこと」に関する児童書 10 冊の内容から、児童の「発表」や「人前で話すこと」への抵抗感の改善につながるアドバイスやスキルに関する記述を抽出した。これに基づき計 351 枚のカードを作成した(切片化)。これらのカードを K J 法の手順ののっとり、内容の上でお互いに近いものをまとめて一行見出しをつけた(コード化)。コードは 174 となった。次に、一行見出し同士を見ながらさらにお互いに近いものを方略としてグループにまとめ、それぞれの方略グループに見出しをつけた(カテゴリー化)。カテゴリーは 90 となった。ここで、児童の「発表」や「人前で話すこと」への困難感と結びつけるため、パターンランゲージの制作プロセスを参考にした。国語教育のためのパターンランゲージを作成した

富安(2015)を参考に、困難感を〔問題〕とし、K J法で導き出されたカテゴリーを〔解決の方略〕とするパターンを構成した。パターンは 23 となった。

なお、困難感は田近ら(2002)による『子どものコミュニケーション意識』の調査によって明らかにされた課題と児童書での記述を参考に考えた。

ここで作成した 23 のパターンを使用し、パターンランゲージを作成した。富安(2012,2015,2017,2018)やプレゼンテーション・パターン プロジェクト(2011)の示している形式を参考に、本研究で作成・提案する「話すことに抵抗感のある児童」向けパターンランゲージ教材の形式は以下のように設定した(表 1)。

表 1. 教材のパターンランゲージ項目

	項目名
タイトル パターン番号	〔タイトル〕 〔番号〕
やりたいこと	〔状況〕
イラスト こまっていること	〔イラスト〕 〔問題〕
イラスト こまっていることの原因	〔イラスト〕 〔フォース〕
解決のヒント	〔ヒント〕
解決の方法 イラスト	〔解決〕 〔イラスト〕
方法の具体例	〔具体例〕
あわせてどうぞ	〔他パターンとの接続〕

項目は『話し合いのための言葉コレクション』(富安,2018)が小学生向けに作成しているものであるため、主にこの形式に倣った。さらに、富安(2015)によって指摘されていたイラストが「児童の直感的な理解を支援する」ことから、〔こまっていること(問題)〕〔こまっていることの原因(フォー

ス)〕〔解決の方法(解決)〕の 3 項目にイラストを添えることとした。『プレゼンテーション・パターン』(プレゼンテーション・パターン プロジェクト,2011)では、イラストは 1 つでパターンの〔解決〕の内容を表すものであったが、本教材では〔こまっていること(問題)〕と〔こまっていることの原因(フォース)〕、〔解決の方法(解決)〕のそれぞれにイラストを置くことで、小学生である児童が解決だけでなく児童自身の課題への意識とも共感しやすくすることをねらいとしている。

分析・作成したパターンで〔問題〕と〔解決の方略〕であった項目をパターンランゲージでは〔問題〕と〔解決〕に組み直した。その際、ひとつの〔問題〕に対し〔解決の方略〕がいくつか考えられるものが存在したため、(1)各方略を含む大枠を示す (2)方略を絞る の選択を行った上で〔解決〕に組み込んだ。さらに、その〔問題〕と〔解決〕をもとに、プレゼンテーション・パターン プロジェクト(2011)や富安(2012,2015,2017,2018)を参考にしながら〔タイトル〕〔状況〕〔フォース〕〔ヒント〕〔解決〕〔具体例〕〔他パターンとの接続〕を考えてパターンランゲージを作成した。

3. 教材のポイント

以上の手順によって導き出されたパターンをカード化したものが 4 章に示した図 4.1~4.23 である。例を以下に示し(図 3.1)、工夫点を、富安(2015,2018)、プレゼンテーション・パターン プロジェクト(2011)が示している形式を参考に項目ごと以下に述べる。

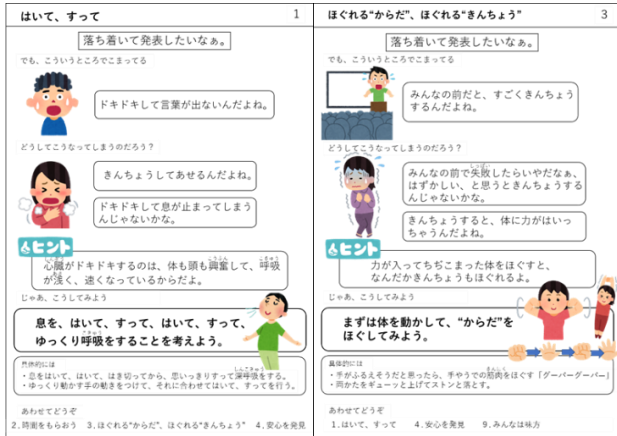


図 3.1 話すことに抵抗感のある児童向け教材

〔タイトル〕については、富安(2015)の検討をもとに、「1:声に出して言いやすいこと、2:パターンの内容をよく表していること、3:印象に残りやすいこと」を意識している。例えば【1. はいて、すって】は、〔具体例〕に挙げた「息をはいて、はいて、はき切ってから、思いっきりすって深呼吸をする。」という方略をもとに、「すって、はいて」ではなく「はいて、すって」という順序にあえてすることでこのパターンの示す内容をよく表し、印象に残りやすくすることをねらっている。【3. ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”】は、富安(2015)の検討より「可能な範囲で末尾を名詞にする」というポイントを参考にしている。

〔状況〕については、この2つの例はどちらも「落ち着いて発表したい」とした。富安(2015)の検討より「1)そのパターンを適用しようとする志向性、2)そのパターンを適用するタイミングや状況」を示すようにした。23のパターン全体で見ると、1～4が「落ち着いて発表したい」、5～6が「授業中に発言できるようになりたい」、7～9が「失敗しないで発表したい」、10～13が「いいふんいきで発表したい」、14～16が「みんなに聞こえる声で発表したい」、17～20が「伝わりやすい発表がしたい」、21が「やりとりのある発表がしたい」、22が「話し合いで意見を言いたい」、

23が「話し合いで司会が出来るようになりたい」となっている。基本的に2つから4つのパターンを大きく同じ〔状況〕のまとまりとし、児童の話すことへの困難感が発生する〔状況〕をまずはまとまりとして選択して、そこから各パターンに細分化して読むことが出来るようにした。

〔問題〕と〔解決〕については、児童書の内容から導き作成したパターンを使用している。パターンランゲージにするにあたっては、〔問題〕は児童の心情を言葉にするような言葉遣いにして共感しやすくする点、〔解決〕は堅苦しくならないように「～しよう。」「～してみよう。」のように親しみやすい言葉にする点を意識している。

〔フォース〕については、富安(2015)の検討の「パターンランゲージの利用者の問題状況についての理解を促す」ことを念頭に置き〔問題〕の原因分析と〔解決〕への志向性の2つの視点から考えた。〔問題〕の原因分析としては【1. はいて、すって】では「きんちょうしてあせるんだよね。」「【3. ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”】では「みんなの前で失敗したらいやだなあ、はずかしい、と思うときんちょうするんじゃないかな。」、〔解決〕への志向性は【1. はいて、すって】では「ドキドキして息が止まってしまうんじゃないかな。」「【3. ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”】では「きんちょうすると、体に力がはいっちゃうんだよね。」としている。〔フォース〕は教材の使用対象である話すことに抵抗感をもつ児童に共感しつつ困難の原因を分析していく第3者の視点であるように意識して記述した。

〔問題〕と〔フォース〕に関しては、それぞれの内容を表す〔イラスト〕を置くことで視覚的にも共感を促すよう工夫した。

〔ヒント〕については、『話し合いのための言葉コレクション』(富安,2018)を参考に「なぜ〔解決〕のこをするのか」を説明することで〔解決〕の方略を使用しやすくなるようにした。

〔具体例〕については、分析対象の図書に記載されていたさまざまな実践形式の方略をあわせて記述した。また、〔解決〕と〔具体例〕の内容から〔イラスト〕を置くことで視覚化しイメージをもって実践しやすくなるように工夫した。

〔他パターンとの接続〕については、適宜他のパターンともあわせて使いやすいう、できる限り〔状況〕のまとめりだけでなく 23 のパターン全

体から関連しそうなパターンを記載した。

以上の点に留意し作成した、話すことに抵抗感のある児童のための自学教材を提案する。

4. 自学教材例

以下が今回提案する具体的な教材例である(図 4.1~4.23)。

はいて、すって

1

落ち着いて発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



ドキドキして言葉が出ないんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



きんちょうしてあせるんだよね。

ドキドキして息が止まってしまうんじゃないかな。

ヒント

心臓しんぞうがドキドキするのは、体も頭も興奮こうふんして、呼吸こきゅうが浅くあさ、速くなっているからだよ。

じゃあ、こうしてみよう

息を、はいて、すって、はいて、すって、
ゆっくり呼吸こきゅうをすることを考えよう。



具体的には

- ・息をはいて、はいて、はき切ってから、思いっきりすって深呼吸しんこきゅうをする。
- ・ゆっくり動かす手の動きをつけて、それに合わせてはいて、すってを行う。

あわせてどうぞ

2. 時間をもらおう
3. ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”
4. 安心を発見

図 4.1 はいて、すって

時間をもらおう

2

落ち着いて発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



発表しなきゃいけないとなると、頭が真っ白になって、考えられなくなってしまふんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



考えなきゃ、考えなきゃ、と思うとあせるよね。

言いたかったことを^{わす}れちゃうこともあるよね。

ヒント

考えをまとめる時間が必要だね。

じゃあ、こうしてみよう

**あせらず、ゆっくり、考えられる時間を
かくほ
確保しよう。**



具体的には

- ・「時間をください」と言って、次の言葉が出てくるまで待つ。
- ・「わかりません」をはっきり言うことも大切だよ。

あわせてどうぞ

1. はいて、すって
5. 自分の言葉でOK

図 4.2 時間をもらおう

ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”

落ち着いて発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



みんなの前だと、すごくきんちょうするんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



みんなの前で失敗したらいやだなあ、はずかしい、と思うときんちょうするんじゃないかな。

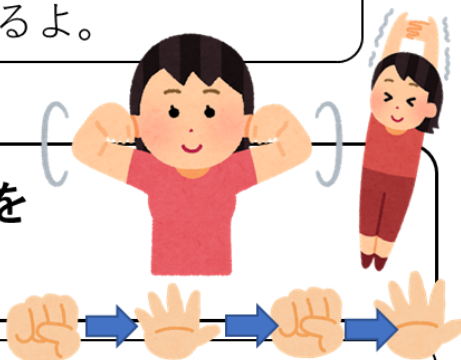
きんちょうすると、体に力がはいっちゃうんだよね。

ヒント

力が入ってちぢこまった体をほぐすと、なんだかきんちょうもほぐれるよ。

じゃあ、こうしてみよう

まずは体を動かして、“からだ”をほぐしてみよう。



具体的には

- ・手がふるえそうと思ったら、手やうでの筋肉きんにくをほぐす「グーパーグーパー」
- ・両かたをギュッと上げてストンと落とす。

あわせてどうぞ

1. はいて、すって
4. 安心を発見
9. みんなは味方

図 4.3 ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”

安心を発見

4

落ち着いて発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



考えていることはあるのに、
なかなか言えない。

どうしてこうなってしまうのだろう？



みんなが聞いていると思うと
きんちょうするんだよね。

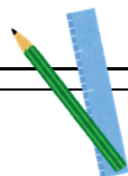
言いたいことを忘れちゃいそうで、
心配っていうのもあるかもしれないね。

ヒント

何かを持って話をすると、意外ときんちょうしないで話することができるよ。

じゃあ、こうしてみよう

安心できるものを持って話してみよう。



具体的には

- ・話すことのメモを作り、持って話す。
- ・持つと落ち着くもの(えんぴつやじょうぎなどでもOK)を見つける。

あわせてどうぞ

5. 自分の言葉でOK 6. あと一步、ふみ出すための目標 もくひょう

図 4.4 安心を発見

自分の言葉でOK

5

^{じゅぎょう}
授業中に発言できるようになりたいなあ。

でも、こういうところこまってる



自分の考えに自信^{じしん}がもてないんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



まちがえたくない、と思うからかな。

クラスの人からいろいろ言われたらいや
だなあ、と思うのかもしれないね。

ヒント

完璧じゃなくていいから、自分の言葉で伝える
ことが大事だよ。

じゃあ、こうしてみよう

**せっかく考えたこと、
自分の言葉で伝えられればOK！**



具体的には

- ・ 「私の考えでは」 「私の判断^{はんだん}では」 と、ことわってから言う。

あわせてどうぞ

4. 安心を発見

6. あと一步、ふみ出すための目標^{もくひょう}

22. 聞いて考えて

図 4.5 自分の言葉でOK

あと一步、ふみ出すための目標 もくひょう

6

じゆぎょう
授業中に発言できるようになりたいなあ。

でも、こういうところこまってる



なんとなく、ゆうき勇気が出ないんだよね。

どうしてこうなってしまうのだろう？



みんなの前で話すのはきんちょうするからかな。

自分にはゆうき勇気がないから.....と
思っているんじゃないかな。

ヒント

目標を立てると、それをたっせい達成しようというゆうき勇気が
わいてくるよ。

じゃあ、こうしてみよう

あと一步ふみ出すために、たっせい達成したい
もくひょう目標を立てよう。



具体的には さいてい最低1回は発言しよう」というようにもくひょう目標を立てる。

あわせてどうぞ

- 4. 安心を発見
- 5. 自分の言葉でOK

図 4.6 あと一步踏み出すための目標

トライ&ゲット

7

^{しっぱい}失敗しないで発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



うまくいくか^{ふあん}不安になるんだ。

どうしてこうなってしまうのだろう？



うまくいかないかもしれない.....
と考えるしまうんじゃないかな。

どうなるか、イメージができない
からかもしれないね。

ヒント

考えるより、まずはやってみよう！

じゃあ、こうしてみよう



- ①考えすぎないこと！
- ②練習してみて、イメージや直すところを見つけよう。

具体的には

- ①みんなはそれほど注目していないよ。だいじょうぶ。と思おう。
- ②友だちと見合ったり、録画^{ろくが}・録音^{ろくおん}してチェックしたりする。

あわせてどうぞ

8. リアルイメージ

図 4.7 トライ&ゲット

リアルイメージ

8

失敗しないで発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



準備したことが発揮できるか、不安になるんだよね.....

どうしてこうになってしまうのだろう？



本番はどうか想像できないからかな。

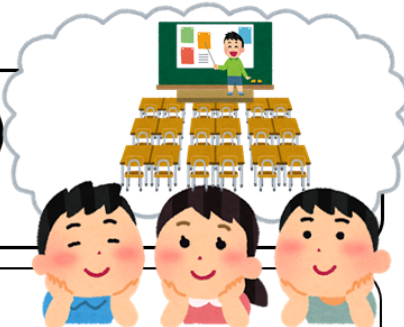
ハプニングが起こったらどうしようと思うからかもしれないね。

ヒント

具体的に本番のイメージをもっておくといいね。

じゃあ、こうしてみよう

実際の発表(ハプニングもあるかも!?)をイメージして練習をしておこう。



具体的には

- ・ 場所や聞き手の人数、時間などをイメージして練習する。
- ・ 練習中にわざとハプニング(メモのとちゅうを紙でかくすなど)を起こして、ハプニングに対応する練習をする。

あわせてどうぞ

7. トライ&ゲット

9. 先を見ておくよゆう

図 4.8 リアルイメージ

先を見ておくよゆう

9

^{しっばい}失敗しないで発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



あせると、読んでいる所がわからなくなっちゃうんだ。

どうしてこうなってしまうのだろう？



文字を一生けん命追いかけてしまっているんじゃないかな。

読むスピードと見るスピードが合わなくなるんだね。

ヒント

少し先が見えていると、安心できるよ。

じゃあ、こうしてみよう

少し先の文字に視線を向けるようにしてみよう。

具体的には

- ・文章を読むときは、5～6字先を見る。
- ・発表原稿などは、キーワードメモで目立つように書いておく。



あわせてどうぞ

4. 安心を発見

図 4.9 先を見ておくよゆう

みんなは味方

10

いいふんいきで発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



みんなにどう思われるか不安^{ふあん}なんだ。

どうしてこうなってしまうのだろう？



「きんちょうしているな。」と思われたらはずかしい、と思うんじゃないかな。

冷^ひやあせとかふるえとかが伝わってしまうんじゃないかと不安^{ふあん}だよ。

ヒント

あえて自分の心を伝えることで、みんなは味方になってくれるよ。

じゃあ、こうしてみよう

事前に聞き手を味方につけておこう。

具体的には

- ・「きんちょうしている」ことを聞き手に伝えておく。



あわせてどうぞ

3. ほぐれる“からだ”、ほぐれる“きんちょう”
5. 自分の言葉でOK

図 4.10 みんなは味方

みんなも参加させちゃおう

1 1

いいふんいきで発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



みんなの反応がうすくて、不安になるんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



だまって聞いてくれていると、反応がないようで不安になるよね。

もしかして面白くないのかなと思って、どんどん不安になるね。

ヒント

発表の中でみんなが参加・反応できる場をつくると、きっと反応がもらえるよ。

じゃあ、こうしてみよう

自分から、聞き手が反応しやすい話し方をしてみよう



具体的には

- ・「〇〇な人、手を挙げてください。」のように、みんながいっせいに反応できるような「呼びかけ」をする。

あわせてどうぞ

10. みんなは味方

12. 聞いているよサイン

図 4.11 みんなも参加させちゃおう

聞いているよサイン

1 2

いいふんいきで発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



発表をする人が、不安^{ふあん}そうにしているんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



聞き手の反応^{はんのう}がないと、話し手は不安^{ふあん}になるよね。

集中して話をきいていると、ついついまじめな顔になっちゃっていることがあるかもしれないね。

ヒント

聞いている人が反応^{はんのう}してくれると、ちょっと安心するよね。

じゃあ、こうしてみよう

聞き手は、聞いているよサインを送ろう。



具体的には

・「聞いているサイン」

= 笑顔^{えがお}、うなずく、いいね、小さくはく手、面白^{わら}かったら笑う、などなど。

あわせてどうぞ

1 2. みんなも参加させちゃおう

1 3. 一人ひとりへの視線

図 4.12 聞いているよサイン

一人ひとりへの視線^{しせん}

13

いいふんいきで発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



発表中、みんなが楽しいか不安^{ふあん}になるんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



みんなのことは見られていないのかもしれないね。

見ても、みんながどう感じているかわからないこともあるよね。

ヒント

「みんな」と思うから、わからないのかもしれないね。

じゃあ、こうしてみよう

「みんな」じゃなくて、一人ひとり、
聞き手の表情^{ひょうじょう}を見ながら話す



具体的には

- ・聞き手が「わからない」顔をしていたら説明^{せつめい}を加える^{くわ}。
- ・しんけんに聞いているからこそ無表情^{むひょうじょう}という場合もあるよ、知っておこう。

あわせてどうぞ

11. みんなも参加^{さんか}させちゃおう

12. 聞いているよサイン

図 4.13 一人ひとりへの視線

声出し練習

14

みんなに聞こえる声で発表したいなあ。

でも、こういうところこまってる



なかなか大きい声が出せないんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



大きい声を出すことになれていないからかな。

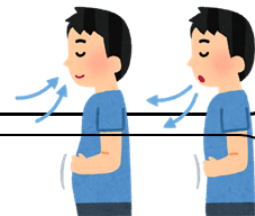
はずかしさもあって、ますます声が小さくなってしまふのかもしれないね。

ヒント

声の出し方を知ることから始めよう。

じゃあ、こうしてみよう

声を出す練習をしよう。



具体的には

- ・いろいろな声を出してみる。
(大きな口で、赤ちゃんみたいに、ほっぺに手をあて、ひそひそ声で、など)
- ・ふくしきこきゅう腹式呼吸でひびく声を出す。

あわせてどうぞ

1. はいて、すって
3. ほぐれる”からだ“、ほぐれる”きんちょう“

図 4.14 声出し練習

めりはりボイス

15

みんなに聞こえる声で発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



聞こえないって言われちゃうんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



自信じしんがなくなってだんだん声こゑが小さくなってしまうかもしれないね。

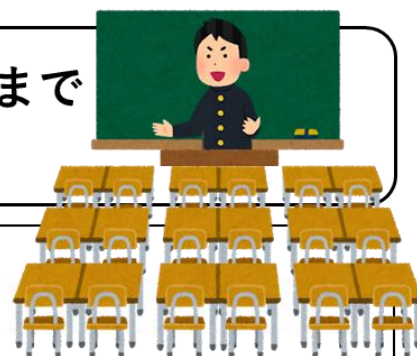
ずっと同じ声こゑの大きさでも、何が大事かわかりにくいことがあるよ。

ヒント

特にとく聞いてほしいところは、はっきり言うつたと伝わりやすいよ。

じゃあ、こうしてみよう

堂々どうどうと、めりはりをつけて、最後さいごまではっきり話いしきすことを意識しよう。



具体的には

- ・一番前から一番後ろの子に届ける声で

あわせてどうぞ

- 8. リアルイメージ 14. 声出し練習

図 4.15 めりはりボイス

ゆっくり言葉

みんなに聞こえる声で発表したいなあ。

でも、こういうところでこまってる



早口になってしまっただよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



あせってしまうんじゃないかな。

話すことに夢中むちゆうになってしまっていることもあるかもしれないね。

ヒント

聞き手に届けることとどを意識いしきしよう。

じゃあ、こうしてみよう

みんなが聞きやすいように、ゆっくり、
区切りいしきを意識して話そう。



具体的には

- ・言葉の区切りごとに、口をとじてみることで「間」をとる。
- ・指示役の指示しじの通りに話す速さや間を変える練習をする。

あわせてどうぞ

15. めりはりボイス

17. 聞く人目線

図 4.16 ゆっくり言葉

聞く人目線

17

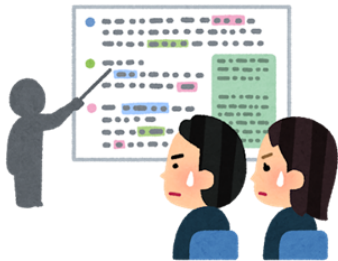
伝わりやすい発表がしたいなあ。

でも、こういうところこまってる



みんなに^{きょうみ}興味をもって聞いてもらえる話の仕方がわからないんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



他の人が知らないことを、自分は分かっているから、みんなも分っているつもりで話してしまっているかもしれないね。

長く、たくさん^{せつめい}説明されると、聞く人は大変に感じて^{きょうみ}興味がなくなってしまうこともあるよね。

ヒント

聞いて分かりやすいこと、聞いて分かりやすい言葉だと、聞いている人は^{きょうみ}興味をもちやすいね。

じゃあ、こうしてみよう

聞く人目線で、言葉を考えてみよう。

(ぼくにとっては右だけど、)
(みんなにとっては…)

！左！を見てください！



具体的には

- ・何について話すのかをはっきり先に伝える。
- ・聞く人にとっての「右」「左」など、聞く人の身になって、言葉を選^{えら}ぶ。

あわせてどうぞ

11. みんなも^{さんか}参加させちゃおう

18. ひと^{せつめい}と言説明

図 4.17 聞く人目線

ひと言説明

伝わりやすい発表がしたいなあ。

でも、こういうところこまってる



話している内容や意味が聞き手に正しく伝わらないんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



説明が長くなると、聞いている人はよく分からなくなってしまうことがあるね。

一番言いたいことは何だったのかが伝わっていないかもしれないね。

ヒント

短く、はっきり、言えると、聞き手は分かりやすくなるよ。

じゃあ、こうしてみよう

わかりやすいひと言で一番大事なことを伝えよう。



具体的には

- ・結論は最初と最後に言う。
- ・言いたいことをひと言（30～40字くらい）でまとめておく。

あわせてどうぞ

- 17. 聞く人目線
- 4. 安心を発見

図 4.18 ひと言説明

材料集め

19

伝わりやすい発表がしたいなあ。

でも、こういうところでこまってる



何を話せばいいか分からないんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



あんまり思いつかないのかもしれないね。

頭の中だけで考えていると、話すことが
うかばないこともあるよね。

ヒント

書き出してみると意外と思いついて、整理できる
こともあるよ。

じゃあ、こうしてみよう

テーマを決めて、思いつくことをどんどん
書き出して材料集めをしてみよう。

具体的には

- ・ふせん1枚に1つずつ書き出す。そうすると後で、話す順番にならべかえも、しやすい。

あわせてどうぞ

- 2. 時間をもらおう
- 20. 考えをまとめる「型」
- 21. やりとりのスタンバイ

図 4.19 材料集め

考えをまとめる「^{かた}型」

20

伝わりやすい発表がしたいなあ。

でも、こういうところでもまってる



話すことをどうまとめたらいいか
分からないんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



話すことが思いつかないときも
あるよね。

話したいことはせっかく思いついても、
まとめ方が分からないのかもしれないね。

ヒント

話すことをまとめる、やり方があるよ。

じゃあ、こうしてみよう

^{かた}「型」を用いて話す内容やポイントを
まとめよう。



具体的には

きしょうてんけつ

- ・「起承転結」①こういうことがありました。(起)→②それがこんなふうになりました。(承)
→③ところが、こんなこともあったんです。(転)→④最後は、こうでした。(結)
- ・「5W1H」 when(いつ)/where(どこで)/who(だれが)/what(何を)/why(どうして)/
how(どのように)

あわせてどうぞ

18. ひと言説明 ^{せつめい}

19. 材料集め ^{ざいりょう}

図 4.20 考えをまとめる「型」

やりとりのスタンバイ

21

やりとりのある発表がしたいなあ。

でも、こういうところこまってる



しつもん
質問や話すことがぱっと思いつかないんだよね。

どうしてこうなってしまうのだろう？



その場ですぐに考えるのは難むずかしいのかもしれないね。

とつぜん話さなきゃいけないとなるとあせってしまうんだよね。

ヒント

話すためには、あるていどの時間がひつよう必要なこともあるよね。

じゃあ、こうしてみよう

発表の前にやりとりをする準備じゅんびをしておこう。

具体的には

- ・事前に話すことや質問しつもんしたいことを考えておく。
- ・事前に考える時間をとる。



あわせてどうぞ

2. 時間をもらおう

8. リアルイメージ

図 4.21 やりとりのスタンバイ

聞いて考えて

22

話し合いで意見を言いたいなあ。

でも、こういうところでもまってる



どんなことを言ったらいいかわからなくて言えないんだ。

どうしてこうになってしまうのだろう？



他の人と意見がちがうかもしれないと不安ふあんになるんじゃないかな。

自分の意見がすぐに思いつかないこともあるかもしれないね。

ヒント

他の人の意見に賛成さんせい・反対はんたいを言ったり、つけ足したりするのもいいね。

じゃあ、こうしてみよう

他の人の意見を聞いて考えてみよう。



具体的には

- ・他の人の意見を聞いて、似ている意見だと思ったら自分の言葉でつけ足す。
- ・発言した人の考えを聞いて意見をまとめる。

あわせてどうぞ

21. やりとりのスタンバイ

23. 声聞きリーダー

図 4.22 聞いて考えて

声聞きリーダー

23

話し合いで司会しかいができるようになりたいなあ。

でも、こういうところでこまってる



司会しかいってどうしたらいいかわからないんだよね。

どうしてこうになってしまうのだろう？



やったことがないからできない、
と思うんじゃないかな。

何をすればいいのかがよく分からない
んだよね。

ヒント

司会しかいは率先そっせんしてみんなの声を聞く役割やくわりだよ。

じゃあ、こうしてみよう

**「みんなの声を聞くリーダー」
になろう。**

- 具体的には
- ・みんなが発言できるように公平に意見を聞く。
 - ・みんなの意見を整理してまとめる。
 - ・みんながわかったか確認かくにんする。



あわせてどうぞ

13. 一人ひとりへの視線しせん 17. 聞く人目線 22. 聞いて考えて

図 4.23 声聞きリーダー

これらを用いることで、教師の介入がなくても児童が自身の困難感に合わせて参考にすることが出来るのではないか。

5. おわりに

以上のように本研究では、話すことに抵抗感のある児童を支援する児童書の分析と児童の困難感を結びつけて、話すことに抵抗感のある児童のための自学教材を作成し、提案した。

しかし、今回作成した自学教材をどのような場面で使用することが有効かを明らかにすることは出来なかった。また、教材を作成したものの、実際にこれらの教材を児童に提示し使用することでどのような学習効果が得られるのかを確かめることも今後の課題である。

今後の展望としては、今回は田近ら(2002)の調査と児童書の内容から児童の困難感を推測せざるを得なかったが、今後児童の話すことへの困難感についての詳しい実態調査が望まれる。これによって、より児童の実態に即した方略を提案することが出来るだろう。

6. 参考文献

池上彰. こうすれば発表がうまくなる, 小学館, 2010, 159p, (こどもスーパー新書).

井出一雄監修. 小学生のための表現力アップ教室: 話す力・書く力をきたえる 1(1・2年生の話し方・書き方教室), 小峰書店, 2009, 79p.

井出一雄監修. 小学生のための表現力アップ教室: 話す力・書く力をきたえる 2(3・4年生の話し方教室), 小峰書店, 2009, 79p.

井出一雄監修. 小学生のための表現力アップ教室: 話す力・書く力をきたえる 4(5・6年生の話し方教室), 小峰書店, 2009, 79p.

井庭崇編著. 中埜博, 江渡浩一郎, 中西泰人, 竹中平蔵, 羽生田栄一著. パターン・ランゲージ = PATTERN LANGUAGES: 創造的な未来

をつくるための言語, 慶應義塾大学出版会, 2013, 400, 10p, (リアリティ・プラス).

海野美穂. イラスト版人前で話すこつ: 子どもの発表力をのばす 52 のワーク, 合同出版, 2018, 119p.

生越嘉治. 話し合いと発表力トレーニング③意見発表トレーニング, あすなろ書房, 2003, 111p.

学習スキル研究会編. 多田孝志, 石田好広監修. イラスト版子どもの対話力: 上手に意思を伝える 43 の対話トレーニング, 合同出版, 2012, 107p.

川喜田二郎. 発想法: 創造性開発のために, 中央公論社, 1967, 202p, (中公新書).

川喜田二郎. 続・発想法: K J 法の展開と応用, 1970, 316p, (中公新書: 210).

白石謙二. 発表・スピーチに自信がつく! 魔法の話し方トレーニング②授業で自信まんまん!, 汐文社, 2018, 47p.

田近洵一編著. 子どものコミュニケーション意識. 学文社, 2002, 174p.

富安慎吾. パターンランゲージによる方略の記述に関する試み: 小学校国語教科書における「話すこと・聞くこと」の検討を中心に. 全国大学国語教育学会発表要旨集. 2012, (123), p237-240.

富安慎吾. 話し合いのための言葉コレクション. 2018, [n.p.]. (研究資料). <https://www.evernote.com/shard/s11/sh/449c171d-a313-47a7-bfcc-eeee7848b729/6fb4683c694505d0>, (参照 2019-1-30).

富安慎吾. 学習観の形成を支援する方法についての検討——漢字学習のためのパターンランゲージを用いて——. 国語科教育. 2017, 81(0), p 23-31.

富安慎吾. 国語教育のためのパターンランゲージについての考察——理念を実現するための形式の検討(1)——. 島根大学教育学部紀要. 教育科

学・人文・社会科学・自然科学. 2015, 48 別冊,
p19-29.

西出博子. 友だちが増える話し方のコツ, 学習研
究社, 2009, 95p.

原田大介. インクルーシブな国語科授業づくりー
発達障害のある子どもたちとつくるアクティ
ブ・ラーニングー, 明治図書, 2017,142p.

プレゼンテーション・パターン プロジェクト編著.
プレゼンテーション・パターン =
Presentation Patterns A pattern Language for
Creative Presentations(Ver.0.50), 2011, [n.p.].
(研究資料).

<http://presentpatterns.sfc.keio.ac.jp/download.html>, (参照 2019-1-30).

文部科学省. 通常の学級に在籍する発達障害の可
能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生
徒に関する調査結果について, 2012, 19p.

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf, (参照 2019-1-30).

矢島伸男. イラスト版子どものユーモア・スキル:
学校生活が楽しくなる笑いのコミュニケーション,
合同出版, 2017, 119p.